

第7期四国中央市自立支援協議会 第5回会議 議事録

開催日時	2021年5月27日(木) 19:00～20:30
開催場所	四国中央市保健センター1階検診室
参加者 (敬称略)	藤枝俊之・清家 孝・一柳栄一・近藤秀光・篠原あゆみ・ 石水太一・大西未佳・高橋隆晋・藤原夕紀・鈴木秀明・ 曾我部綾・藤田昌子 以上委員12名(委員14名のうち) 大西 緑(福祉部長)オブザーバー
傍聴人	一般 1名
事務局	越智 寛・高橋哲也・尾崎智恵子・星川貴宏
協 議 内 容	
<p>1. 開 会 (第5回会議より従来の対面方式に加えてオンラインも併用した形での開催。)</p> <p>2. 会長挨拶 現状、どの施設であっても、どの場所においてもコロナの感染は起こりうる。どうやって収束させたり、サポートさせたりするか考えることが肝要と思われる。 障がい児者にとっての移動支援等についてよく話されるが、それに加えて情報インフラによる情報支援・ネットワークは今後障がい児者の生活にとって、無くてはならないツールであり、我々支援者にとっても必要なツールではなかろうか。</p> <p>(事務局) 配付資料の確認。(オンライン参加者には画面共有も) 1. 第5回資料 2. 障がい者条例(案)…取り扱い等について配慮のお願い オンライン会議のルール・注意点の説明。</p> <p>3. 議事(議長) 【報告事項】①連絡会及び各専門部会より活動計画 (1)資源開発部会 6月9日に第1回部会をウェブ会議にて行うこと決定。原則、月1回は開催したい。 活動内容としては、1点目として前年度よりニーズ調査・分析結果から明らかとなった課題の解決策について具体的な検討を行っている。最重要ニーズから「福祉情報の提供、周知」に焦点を当てて検討を行い、現在、解消させる手立てのひとつとしてポータルサイトの作成に着手しており、今年度中の完成を目指す。アンケート結果で多く挙げた「相談先がわからない」「どこにどんなサービスがあるかわからない」という困りごとを解消できれば。 2点目として、今年度策定される「第三次障がい者計画」に当市の課題やニーズを反映させるため、協議に参加協力を行う。 その他検討課題については、資料に記載のとおり。</p>	

(2) 権利擁護部会

部会員に開催方法等の希望調査を行い、6月半ばを目途に第1回会議の日程調整中。

活動目標については、前年度から引き続き、障がい者の権利擁護に関し、特に、①成年後見制度の利用及び障がい者に対する虐待の防止等にかかる相談支援体制の構築と制度等の普及啓発活動の促進、②四国中央市成年後見制度利用促進基本計画に基づく権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた実効性のある体制づくりの検討を目標に掲げて活動する。

具体的な活動方針としては、以下の5点であるが「権利擁護パンフレット」改訂版の完成に向けて取り急ぎ行う。

1. 障がい福祉関係機関の相談窓口の活動状況及び課題の把握と整理
2. 四国中央市成年後見制度利用促進基本計画に沿った相談支援体制の構築に向けた体制及びツール（相談票の一元化）の検討及び提案
3. 「権利擁護パンフレット」改訂版の作成
4. 権利擁護支援の地域連携ネットワーク整備の検討及び提案
5. 市民後見人の養成に向けた検討及び提案

(3) 地域共生部会

4、5月については、部会員に文書を配付し今後の方針等について報告するとともにご意見をいただいた。部会員を集める会議は6月21日を予定しており、今後は併用方式での開催見込みとなる。

活動目標については、例年通り「地域で共に生きる（暮らす）を支援する」とし、活動内容として、ヘルプマークの啓発活動として、広報2月号を一部加工して市のチラシを作成するとともに、県作成のポスターを配布し、市のユーチューブやコスモステレビのメディアを活用し広報していく。また、サポーターマークについては、継続可能な制度としていくために検討中で、他県で行っている同様なものを参考に、生活福祉課とも協力しながら今年度中の創設を目指している。ぼうさい学校等のイベントについては、コロナ禍でどのような形であれば開催できるか考えつつ、みんなが寄って集まるイベントだけではない広報の仕方など方策を考える機会を提供したい。

(4) 相談支援専門員連絡会

連絡会は、月1回程度開催を予定。5月24日に各事業所代表1人、開催時間1時間以内として対面式で実施。ソーシャルディスタンスを取り、間にはパーティションを設置したりして出来る限りの対策を行った。

活動内容としては、市内相談支援専門員の情報共有や連携強化、各専門部会・部会員からの情報提供、新規事業所についての情報収集、計画相談支援での課題の抽出、困難事例検討会、介護保険の併用・スムーズな移行についての方策検討、モニタリング等での情報収集の効率的な方法についての協議、第4版四国中央市障がい福祉事業所マップの発行に向けての情報共有等を行っていく。また、福祉なんでも相談会の実施検討や開催について話し合いを進める。

【質疑応答・意見交換】

(議長) すべての部会に対して、コロナのファクターが色々な活動に影響を及ぼし

ているが、コロナの問題に関して、どこがどういう風に管轄するのかなど話や意見は出なかったのか？まだここしばらくは当事者の皆様或いは支援者の皆様共にこの問題は続くだろうし、コロナによって色んな物事が変わってくる。今年コロナの問題をやることによって、今回のZoomのスタイルのように今まで出来なかったことがポンと前に進む可能性もある。

次の会に向けて、コロナの対応・解決に向けて答えは出ないとしても議題のひとつとして出すのもアイデアとしてあるのでは。

【協議事項】①障がい者条例（案）

（事務局） 第4回自立支援協議会に教育厚生委員会委員長の吉原議員が来られ、議員提案条例となる「障がい者条例」について自立支援協議会のご意見をいただきたい旨の協力依頼がありました。4月以降、教育厚生委員会の委員長招集により、正・副委員長、自立支援協議会の代表、生活福祉課による「条例策定検討委員会」を2回、また、正・副委員長及び関係各課の発達支援課、こども課、学校教育課、生活福祉課による「協議会」を1回開催しました。その間、生活福祉課と自立支援協議会の代表で複数回、重複箇所や内容の確認等、協議も行いました。

条例の目的として、障がいの有無にかかわらず暮らしやすい社会を目指した基本的な考え方や合理的配慮、施策などについて規定。あくまで現状の案文ですので、今後、自立支援協議会等のご意見や条文体裁の確認により修正がありますので、その点ご了承ください。

（吉原議員） 自立支援協議会には、全面的にご協力いただき、条例作成のために何度も出向いていただいたり、色々教えていただいたりと大変感謝しています。これからも続けてご協力をお願いしたい。代表の方々にもコロナ禍で大変な中、時間を割いていただき申し訳ないと思っています。

今後のスケジュールとして、6月15日までに内容等についてご意見をいただきたい。この条例を旗印として頑張っていけないといけないし、プラスそれに付随して色々なものが一歩でも前に進んでいければと思うのもうひと踏ん張り力を貸していただきたい。

関連して横内議員が意気込みを持ってパンフレットの案を作成しているがその内容についてもご意見を反映させていきたいと思っています。

【質疑応答・意見交換】

（議 長） 条例はいつの予定ですか。

（吉原議員） 9月議会に上程したい。

（議 長） 意見表明の機会はもうそんなにないので、事務局の方に話をしていただければ。

（吉原議員） 今後も発展はありますが、一応9月には発表したい。

（事務局） 条例（案）について、ご意見等があれば6月11日までに事務局にご連絡いただければ。

4. その他連絡事項（事務局）

①福祉なんでも相談会（相談支援専門員連絡会）

3月20日、中之庄公民館にて開催。ケーブルテレビ等で事前にご案内をしたり、当事者のご家族からの相談やクレシェンドによるミニコンサートも行った。一般の116名をはじめ、事業所から43名等、合計199名の参加者となった。

当日の概況等については、コロナ禍での開催であったため、例年よりコロナ対策等の準備が大変ではあったが、相談員・市職員・各事業所スタッフ協力のもと、予定通りに無事開催でき、事業所同士の顔合わせができる機会にもなった。新しく取り入れたコンサートやスタンプラリーは集客にもつながり、特に児童に好評であった。アンケートの結果、来場者は概ね満足できていた。

課題としては、全体的に会場がせまく、事業所間の通路や物販コーナー・相談コーナーに十分な広さを確保できなかった。多種多様な相談があり、どのコーナーで対応すべきか迷う場面もあり、コーディネーターの配置検討が必要。人の多さと音楽などで、落ち着いて相談できなかったとの意見があった。次回は、コンサート会場と相談ブースの会場を分けることも視野に入れ、開催場所の検討が必要。来場された方は支援につながっている場合が多く、どこにもつながっていない新規の方の開拓が課題。オンラインでの開催も申し込みがなく、周知方法を再検討する必要がある。

【質疑応答・意見交換】

（会 長） 来場者のうち既につながっている人の割合は？

（連絡会長） ほぼ全員です。中には事業所の利用はしていないが、市役所や相談の所に相談にきている方もいました。

（会 長） イベント形式のものは、とにかく集客というのが評価基準となってくるが、数が多くなればなるほど何のために来たのかが見えてこないもので、分析の結果、新規の方の開拓が課題とあるようにその部分を見失わないように、継続的にやらないと数だけがが増えて良かったとならないように。

②太陽の家施設更新（生活福祉課長）

これまでの経緯として、平成29年度にあり方検討委員会を設置、平成30年度、自立支援協議会に諮問し、行政が入所施設を段階的に建設した後、民間が入所施設を建設する。また、新たに建設するのであれば土居庁舎周辺が望ましいと答申を受けた。

令和元年度、答申を受け公共用地で8つの候補地をピックアップし調査、土居庁舎周辺を最優先候補地とする方針を自立支援協議会に報告。

令和2年度、太陽の家の所管課である発達支援課を中心に、関係各課のメンバーで構成される庁内プロジェクトチームで提案内容の具現化について、利用者の地域移行や意思決定の期間の確保、施設運営における人材・安全性の確保やより効率的で効果的な財政運営を進めていくにはどうするかなど現在も検討中。

今後の予定として、令和3年度9月末の最終的な方針決定を目標に、検討を進めており、ある程度方針が固まった段階で、自立支援協議会に報告・ご意見を聞かせていただきたい。

③ハイブリット会議等について感想や意見

- ・やりとり、特に意見のない時や異議がない場合も発言して欲しい。
- ・発言をするタイミングが難しい。
- ・直前まで仕事をしていても、すぐに会議に参加できる利便性はある。
- ・コロナ禍で人と会えない中、相談員として利用者と繋がるツールの一つとして活用していきたい。

④その他

(会 長) コロナワクチン接種について本人の同意が必要となっているが、障がいのある方の同意をどうやって取るのか。精神科領域では、何か方針はあるか。

(委 員) 入院中の方については、本人もしくはご家族の同意を得て接種を行っているが、どなたにも同意が得られない方の接種がいま課題になっている。

(会 長) かかりつけ医で接種出来ない場合に、精神疾患等の障がいのある方の対応に慣れていない医療関係者も多く、同意に対してどうやって合理的配慮を行うかが近々の課題である。

時間を掛けて本人や家族と十分な話し合いを進めておく等、今からの準備が必要。コロナに関する対応等について、それぞれの機関で問題意識を持って対応して欲しい。自立支援協議会の方からもアイデアを出していった方が良いのではと思う。

(委 員) 支援員もワクチン接種に関する情報を収集して、個別に対応をしているが、情報収集の方法がよくわからない。

(会 長) 状況が刻一刻と変化しており、市のシステムとしてどうやって各部門に反映させるか、問題意識を取り組んで行かないといけない。

(委 員) 相談支援専門連絡会等で、意思決定のサポートが出来ているか、受けたくても受けられない方に対してどういった支援をしているか、事例として挙げてもらい共有し、次回自立支援協議会に報告できるのではないか。そこだけでは十分ではないが、情報収集は行っていきたい。

5. 閉会